

第13回番組審議会 審議議事録

1. 開催日 平成28年12月19日(月) 18時～19時
2. 開催場所 中央会館(山形県長井市栄町7-2)
3. 委員出席 委員総数 : 6名
欠席委員 : 1名
出席委員 : 番組審議会副会長 齋藤 喜内
番組審議会委員 塚田 弘一
番組審議会委員 寺嶋 宏武
番組審議会委員 村田 裕子
番組審議会委員 谷澤 秀一
放送事業者側出席 黒澤 栄(代表取締役)
高石仁光(ディレクター)

4. 議題

- (1) 代表者挨拶
- (2) 御審議
- (3) その他

5. 議事の概要

- (1) 開会
- (2) 御審議

①番組の適正について

対象番組:「おらんだラジオ2周年公開生放送」

11月3日(木) 9:00～10:00

(特別生放送枠のサテライト放送オープニング部分)

②質疑応答

③その他

④閉会

6. 審議内容

①番組の適正について

(村田委員)

- ・パーソナリティの工藤さんが辞められるのは、とても残念。天然キャラで普通の人ができない質問もサラッとしてしまうのが魅力的だった。
- ・開局から2年が経過し、当初はぎこちなさが目立ったパーソナリティの皆さんも上手になり、聴きやすくなった。和気あいあいとした仲の良さがラジオから伝わってくる。
- ・遠藤副市長の子供の頃のエピソードもほのぼのしていてよかった。
- ・子供を巻き込んだイベントは、今後のおらんだ人（長井人）を育てる上でもとても貴重だと思う。このような活動をドンドンして行ってほしい。

(寺嶋委員)

- ・和気あいあいとしているのは良いことだが、身内の会話のようになってしまっている。
(パーソナリティを愛称で呼ぶ等) 公の放送なので、もう少しけじめをつけた方がよい。
- ・その場でディレクターに確認することのないように事前の打ち合わせをしっかりと、正しい情報を流してほしい。
- ・耐久マラソンで、リスナーさんからの励ましのメールや地元のお店からの励ましのメッセージ等があり、温かい地域に根差したラジオになってきたと感じた。

(塚田委員)

- ・2周年のイベントということで、パーソナリティの皆さんの盛り上げが上手だと思った。
パーソナリティの皆さんも楽しんでいるから上手だなと感じた。
- ・パーソナリティの工藤さんの副市長に対する質問が良かった。なかなか聞けないことをさりげなく聴いていて面白かった。やめてしまうのは残念だ。
- ・地元密着の情報を流していて親密度がある、地域を再発見させてくれる機会もある、特に「おらんだの社長」等のインタビュー番組は、面白く聴いている。
- ・齋藤友佳さんの「クラシックる Nigh&Day」は、質が高い番組で、このような番組を提供できることは、市民から信用されるラジオ局になっていると感じた。これから更に磨きをかけて行ってほしい。

(谷澤委員)

- ・パーソナリティの皆さんが、(開局当初と比べ)非常に慣れてきたと感じる。質問の引き出し方も上手で、自然で和やかで非常に良いと感じた。
- ・今回のサテライトスタジオでの放送をヒントに今後は街中でも放送できればいい。(川

と道の駅や街中の商店街など)

- ・以前、ミュージックバードに視察に行った際に全国に向けて放送できるという話があった。3年目に向けて、今後は全国発信も考えていってもいいのではないかと。

(齋藤副委員長)

- ・市長、副市長へのインタビューの場面では、唐突な質問も悪くはないが、シーンに合った質問をしてほしい。おらんだラジオを今後どのように活用していきたいか等の質問もしてほしい。
- ・方々からも言われることだが、おらんだラジオの認知が上がってきて “おらんだ (私達) のラジオ “になってきたと感じている。
- ・長井で活躍している様々な人や音楽を知ることができる、おらんだラジオの役割はすごく大きいと思う。

(村田委員)

- ・審議対象番組ではないが、別の放送回で、勉強しないと倉庫で働くことになるというような発言があり、実際に働いている人が聴いたらどう思うか気になった。職業蔑視につながるような発言は慎んだ方がよい。

②質疑応答

(寺嶋委員)

- ・メッセージ数やスポンサー数は増えてきているのか。

(高石ディレクター)

- ・平均して、10～15位のメッセージが集まる。イベントやメッセージテーマによっては、20を超える場合もある。サイマル放送の影響か、地元以外の方からもメッセージが届くようになった。
- ・スポンサーについては、累計60社以上にはなっている。CMも継続していただける所が増えている。スポット (短期間) CMも増えてきており、ラジオの影響力を感じている。

(寺嶋委員)

- ・朝、7時55分頃は毎回同じ人のメッセージを読んでいる気がする。

(高石ディレクター)

- ・毎朝定期的にメッセージを送ってくれる方がいる。他の曜日のパーソナリティにも固定

ファンがついており「お約束」のようなところがある。

(村田委員)

- ・電話をしたいと思ったが電話が繋がらないようだった。

(高石ディレクター)

- ・スタジオに直通電話があるが、発信専用で着信できない。専用のメッセージダイヤル(留守電対応)を準備しているが、ガイダンスが長いとか、あまり利用者がいないので改善していきたい。

(塚田委員)

- ・パーソナリティの年代も幅広く、個性的な人が多い。地元企業のことやどんな人材がいるかわかりよい。オリジナルCMもよい出来で、よく出来ていると感心している。

(高石ディレクター)

- ・自社の社員の方が出演するCMもあり、ラジオに出演することでラジオに興味を持ってもらえるのが良いと思う。

(谷澤委員)

- ・ラジオカーの利用頻度はどうか。

(高石ディレクター)

- ・ラジオカーを導入してから、1年ほどになる。移今話題の場所にラジオカーが行くということが、重要だと思うので、生放送内にコーナーを作り、旬な話題を届けたいと思っているが、人員の問題などであまり実現できていない。
現在は、サテライト放送や取材に行く際のアイコン的な役割がメインとなっている。今後は、生放送に対応できる新たな活用法を模索していきたい。

(黒澤社長)

- ・人手がないという運営の問題もある。収録をし、編集をしてというと大変手間がかかる。
可能な限り、生放送で対応できるようにしたいという方針でやっていきたい。

(谷澤委員)

- ・ラジオカーで、ドンドン街中を走り回ることが、宣伝にもなると思う。イベントごとに集まるのが賑わいにもなる。

(黒澤社長)

- ・飯豊町も来年には中継局ができる予定。今後は白鷹町もエリア拡大できればと思う。道の駅ができれば、ぜひ活用したいと思っている。

(齋藤副委員長)

- ・来年に向けての新しい企画等があれば紹介してほしい。

(高石ディレクター)

- ・1月より、新番組が増える予定。今後は、生番組を増やしていきたい。

(塚田委員)

- ・パーソナリティは、どのような方法で採用しているのか。

(高石ディレクター)

- ・個性的な方など、私がいいなと思った人をスカウトし、社長や上司等と相談の上、採用しています。他にオーディションもあります。パーソナリティの募集は、引き続き行っております。

(寺嶋委員)

- ・訛りについては、拒否反応を示す人もいる。匙加減が難しいところだと思う。

(塚田委員)

- ・私は、聴いていて「ほっと」する。

7. 審議会の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

- ・メッセージダイヤルのアナウンスの再設定

8. 審議会の意見の概要の公表

公表方法：自社ホームページへの掲載

公表内容：本議事録

公表年月日：平成 29 年 1 月 6 日（金）

9. その他の事項

次回の放送番組審議会日程について

- ・平成 29 年 1 月は休会とする。
- ・第 14 回放送番組審議会 平成 29 年 2 月 20 日（月）予定
開場 未定